＜教育長だより 23 号　杁差岳朝日に映えて　令和７年３月４日＞

歴 史 館

教育長　津野庄一郎

「歴史館は、関川教育委員会が管理する（村条例 4 条)」とあります。令和 6 年度「せきかわ歴史とみちの館」運営委員会が、当館映像ホールで開催され、令和 6 年度事業の報告と 7 年度事業計画について話し合われました。

安久昭男館長からは、今年度の入館者が増えたこと（1 月末現在 5652 名、昨年度同月比較で 110 名増）や、村民ギャラリーの企画展の工夫（王輝関の化粧まわしや昔の遊びのパネル展他)、古道歩きや美術館巡り等の様子について説明がありました。委員からは、バスを 1 台増やして希望者に応えることや、戦後 80 年にあたり、当村の戦時下資料を解説展示してはどうかといった意見も出されました。

先月、関川小学校 3 年生が社会科の「昔の道具調べ」で当館を訪れ、民具の体験学習を行ったとのこと。子どもたちは石うすできな粉を作ったり、かんじきで雪の上を歩いたり、講師やボランティアスタッフから説明を受けて学んだということや、ご高齢の方々も健康登山や古文書解読講座などに積極的に参加して学び続けていることなどを、神田舞子学芸員から聞きました。

今後とも関川村の豊かな自然や歴史文化の「情報発信基地」として、村民の「憩いと交流の場」としての役割を果たすべく、限られた予算と人員ではありますが、鋭意努力してまいります。村民の皆様からもぜひ気軽にお立ち寄りいただき、ひと・もの・こととの触れ合いを楽しんでいただけたら幸いです。

＜写真：関川小学校 3 年生の民具体験の様子＞